

経済原論・経済学史

関連キーワード: マルクス経済学、恐慌論、ジェイムズ・ステュアート、重商主義

研究内容

〈経済原論〉 恐慌・不況期の資本の原理の研究

・恐慌期および不況期の資本の行動原理について研究しています。支払不能に陥った資本の行動に潜む法則性を分析し、それが社会的再生産に及ぼす影響を考察することで、恐慌に起因する資本主義経済の収縮と停滞のしくみを明らかにします。

・資本がイレギュラーな行動をとる／とらざるを得ない条件を整理することにより、現実停滞的な経済において拡大再生産を再開させるために有効な方策を考察します。

〈経済学史〉 ジェイムズ・ステュアートの経済理論

・18世紀スコットランドの経済学者ジェイムズ・ステュアートの経済理論について研究しています。アダム・スミス以前の経済理論体系として、商業・流通分析を軸にしたステュアートの学説の特徴を解明します。

・ステュアート理論の再解釈を基礎にして、スミス以前の重商主義学説の学説史的・理論的意義を再評価します。また、古典派以降の経済学の発展を相対化し、経済理論の商業論的な展開の可能性について検討します。

研究者プロフィール

- ・経済学部経済学科 講師 塩見由梨
- ・専門分野
マルクス経済学／経済学説史
- ・研究分野
蓄積論、恐慌論／ジェイムズ・ステュアート
- ・所属学会
経済理論学会、経済学史学会

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

主流派や古典派のようないわゆる「メインストリームではない／なかった」経済学のもつ可能性の展開や発掘を目指して研究を行なっています。

- ・マルクス経済学、恐慌論
- ・ジェイムズ・ステュアートの経済理論
- ・経済理論・経済思想の多様性

などに関心のある方へ、公開講座等で紹介や解説を行ないます。

研究者への連絡先

- ・E-mail アドレス
shiomiy(at)mail.tohoku-gakuin.ac.jp